

巻 頭 言

「まなびあい」を継続していくために

コミュニティ福祉学会運営委員長

コミュニティ福祉学部学部長

沼澤 秀雄

本来であれば2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されていた年でありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、大規模イベントのみならず、人の移動を伴う、ありとあらゆる活動が停止してしまいました。本学は全学生に学修環境整備奨学金として遠隔授業に備える環境を整えるための経済的支援を行い、オンライン授業が始まりました。

今までに経験したことのない授業形態のために、教職員もシステム作りから授業準備まで手探りで、しかも短期間に整備を行い、学生もPCの場面のためのキャンパスライフを味わうことになりました。命の安全と質の高い教育のバランスをどのように考えるか、今もその答えを探し求めている状況が続いています。

コミュニティ福祉学会「まなびあい」は、学部の10周年記念事業として、2007年に立ち上げられました。在学生、卒業生、教職員等による自由な学びと交流の場になることを目指し、年次大会、学会誌発行、研究実践奨励賞などを実施しています。当時の初年度運営委員会組織図を見ると、学部長であった福山清蔵先生が運営委員長となり、副委員長に卒業生の大川真央さん、教員の浅井春夫先生、学生・院生の代表として片山友子さんの名前があがっています。まさにコミ福のコミュニティとして学術的な側面だけでなく、活動実践の報告の場として昨年まで12回の大会を継続して行ってきました。これまで、何人かの先生が「まなびあい」や「コミュニティ福祉学部10年記念誌」に綴っているように、この「まなびあい」はゼミ活動の発表の場として、院生の研究活動の場として、そして卒業生の活動実践紹介の場としてのプラットフォームを備えた極めてユニークなコミュニティとなっています。2018年に20周年を迎えたコミ福はこの「まなびあい」を通して、学びの機会を広げ、様々な福祉に関わる専門家の声を聞いてきました。また、卒業生との接点となり、たくさんの方の現場の実践を紹介していただいています。年に一度のこの学会大会は池袋キャンパスで行なわれているホームカミングデイのような意味合いを兼ね備えているのかもしれませんが。将来的にはもっと気軽にコミ福に帰ってくるができるような

お祭りのなイベントとして位置付けるのも良いのかもしれませんが。

今年度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、開催が危ぶまれた学会大会ですが、学内では1件もイベント開催が許可されていないなかで、運営委員長の高安理先生のリーダーシップと運営委員の皆さんの努力によって「まなびあい」のオンラインでの開催にこぎつけることができました。これからもコミ福の卒業生の皆さんが、新座キャンパスで一堂に会して、研究発表・実践報告を行いながら、仲間と一緒に在学中の思い出を語り合う、そして在学生の皆さんがゼミで取り組んできた研究活動を紹介しながら、卒業生に仕事をする事の厳しさや楽しさについて教えてもらうことができるように運営委員会一同で頑張っていきたいと思えます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「いのちの尊厳のために」という学部理念がこれからも継承され、時代とともに深化し、適合させていく議論ができますように。